



## 平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 日立物流

コード番号 9086 URL <http://www.hitachi-hb.co.jp/>

代表者 (役職名) 執行役社長 (氏名) 鈴木 登夫

問合せ先責任者 (役職名) 人事総務本部 課長 (氏名) 柿野 憲昭

TEL 03-5634-0307

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	414,232	51.7	18,174	44.7	17,727	41.4	8,564	39.0
23年3月期第3四半期	273,130	11.9	12,564	45.7	12,533	46.2	6,161	62.8

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 6,880百万円 (59.3%) 23年3月期第3四半期 4,318百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	76.77	76.58
23年3月期第3四半期	55.23	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	338,191	158,155	44.9
23年3月期	246,558	151,066	60.0

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 151,932百万円 23年3月期 147,887百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	12.00	—	10.00	22.00
24年3月期	—	12.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成23年3月期 第2四半期末の配当金12円00銭には、記念配当2円00銭が含まれています。

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	550,000	49.1	22,600	41.8	22,100	38.8	10,500	54.3	94.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社 (社名) 株式会社バンテック、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	111,776,714 株	23年3月期	111,776,714 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	225,019 株	23年3月期	224,827 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	111,551,783 株	23年3月期3Q	111,552,019 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、企業の物流業務をトータルサポートするB to B事業をコアビジネスとしております。物流市場において、スマートロジスティクス(高度な物流技術・現場ノウハウと多様なサービスメニューによる安全・安心・グリーン・グローバル・ワンストップな物流サービスです。日立物流グループで蓄積したシステム物流(3PL)、重量・機工、フォワーディングを三位一体としてご提供する総合物流サービスです。)の推進で、競合他社との差異化を図り、グループシナジーを最大限高めることにより、物流業界を代表する「日本発グローバルB to B物流企業NO.1」の会社を目指します。

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞から回復しつつあるものの、依然として厳しい状況のうちに推移しました。今後についても、民間設備や住宅、公共事業の復興需要顕在化に期待が高まっておりますが、欧米諸国の財政問題による世界経済の減速と円高の進行などにより、未だ予断を許さない状況が続いております。

物流業界においても、震災影響により減少した国内貨物輸送量の回復基調は弱く、2011年度下期もマイナス成長が予想され、競争の激化などもあり、依然として厳しい経営環境が続いています。このような状況下、当社グループは、大震災による作業の停滞や物量減の影響はあったものの、物流施設が比較的早期に回復したことや、株式会社バンテックをはじめとしたM&Aによる新規連結化及びシステム物流事業における新規案件の受託が堅調に推移したことなどにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,142億32百万円(前年同期比52%増)となりました。営業利益については、売上増加に加え、作業生産性の向上や経費節減の取り組みなどにより、181億74百万円(前年同期比45%増)となりました。経常利益は、177億27百万円(前年同期比41%増)、四半期純利益は、85億64百万円(前年同期比39%増)となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の状況は以下のとおりとなりました。

なお、昨年4月に株式会社バンテックを新規連結化したことにより、国内物流および国際物流の売上高、営業利益等は前年同期を大幅に上回りました。また、昨年12月に株式会社バンテックを当社の完全子会社とする方針を決定するとともに、当社及び株式会社バンテックのフォワーディング事業を当社の完全子会社である日立物流シーアンドエア株式会社に集約すること(会社分割による事業統合)を決定し、今後はPMI(経営統合によるシナジーの創出)を積極的に推進してまいります。

国内物流では、幅広い顧客ニーズに適応した効率的なロジスティクスオペレーションを構築するとともに、全体最適できめ細かなサービスの提供を図りました。

当第3四半期連結累計期間においては、システム物流の受注拡大を図るなか、小売、生活関連分野などを中心とした案件を立上げるなど、新規案件の受託に関しては堅調に推移しました。システム物流のさらなる拡大の取り組みとして、同一業界の複数の顧客を対象に効率的な運営が可能な共同保管・共同配送を実施する「業界プラットフォーム事業」において、既存のプラットフォーム対象業種に加え、今後高成長が期待される業種での新規顧客開拓、不況の影響を受け難い業種でのシェア拡大に向けた営業活動に積極的に取り組みました。また、昨年9月に埼玉県に化粧品関連顧客の東日本エリアへの配送及び全国拠点への供給を担うマザーセンターを開設するなど、事業拠点の整備にも努めました。

これらの結果、売上高は、2,896億6百万円(前年同期比52%増)、営業利益は、221億99百万円(前年同期比30%増)となりました。

国際物流では、グローバル化をすすめるお客様の調達から販売までのワンストップサービスを目指し、最適

で高品質な物流システムの確立に努めました。

当第3四半期連結累計期間においては、生活関連、電機・産業分野などを中心とした案件を立上げるなど、グローバル案件受託が堅調に推移しました。グローバルネットワークの連携強化策として、M&Aにより新規に加わったグループ会社とのシナジー効果の創出を図るとともに、海外地域における現場力のさらなる強化を目的としたM&Aの実施や新規に現地法人を設立するなど、事業基盤の強化を図りました。中国では、一昨年12月に出資比率を引き上げて連結会社となった大航国際貨運有限公司との連携強化を図るとともに、本年1月にD I C株式会社の香港・中国の物流子会社の株式を譲受け、当社の連結会社とし、化学品物流などの業容拡大に努めました。アジアでは、昨年4月にタイを中心としたインドシナ地域の事業拡大・強化を図るために、タイの有力な物流会社の一つであるE T G社を連結化し、また、昨年12月にアパレルビジネスの拡大や新規3 P L案件等の受注、さらにはインドシナ諸国と中国間の陸上輸送への業容拡大を目指し、ベトナムに現地法人を設立しました。また、昨年4月に生活関連のお客様の海外展開をサポートするため、オーストラリアに現地法人を設立し、当社初となるオセアニア地域への事業拡大を図りました。さらに、昨年7月には株式会社近鉄エクスプレスとの合弁会社を設立し、プロジェクトカーゴ領域を対象とした物流サービスの強化を図るなど、海外の各地域における拠点網の整備とグローバルシステム物流の推進に積極的に取り組みました。

これらの結果、売上高は、1,110億69百万円(前年同期比60%増)となりました。営業利益は、25億95百万円(前年同期比96%増)となりました。

その他では、自動車事業(整備・販売・リース他)や旅行代理店事業が好調を維持したものの、システム関連事業が震災の影響によるシステム完成の時期ずれなどにより低調に推移しました。

これらの結果、売上高は、135億57百万円(前年同期比1%増)、営業利益は、16億30百万円(前年同期比6%減)となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末から916億33百万円増加し、3,381億91百万円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金が249億56百万円増加したことなどにより、294億43百万円増加いたしました。固定資産は、のれんが287億65百万円増加したことなどにより、621億90百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末から845億44百万円増加し、1,800億36百万円となりました。流動負債は、短期借入金が360億57百万円、支払手形及び買掛金が135億90百万円それぞれ増加したことなどにより、550億56百万円増加いたしました。固定負債は、長期借入金203億21百万円増加したことなどにより、294億88百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末から70億89百万円増加し、1,581億55百万円となり、また自己資本比率は前連結会計年度末の60.0%から44.9%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、当社グループに新たに加わった株式会社バンテックとの協業体制を確立し、シナジー効果の創出を図り、さらなる事業拡大に努めてまいります。また、国内においては、システム物流の新規受託のさらなる積上げや「業界プラットフォーム事業」の推進、M&A案件の取り込みなどにより業績を伸張してまいります。海外においては、グローバル案件の新規受託の拡大を図るとともに、M&Aにより連結化した現地作業会社との連携の強化、グローバルネットワークを活用したワンストップサービスの提供など、北米・欧州・中国・アジアの4極の事業基盤をさらに拡充してまいります。

なお、2011年10月31日に発表の通期の業績予想に変更はございません。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間において、株式会社バンテックは、株式の公開買付けにより連結子会社としております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,944	12,054
受取手形及び売掛金	69,212	94,168
商品及び製品	560	670
仕掛品	154	368
原材料及び貯蔵品	231	308
預け金	21,877	16,528
その他	13,277	16,806
貸倒引当金	△474	△678
流動資産合計	110,781	140,224
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	50,092	57,950
土地	35,663	48,038
その他(純額)	18,193	23,310
有形固定資産合計	103,948	129,298
無形固定資産		
のれん	12,441	41,206
その他	6,168	9,806
無形固定資産合計	18,609	51,012
投資その他の資産		
投資その他の資産	13,373	17,867
貸倒引当金	△153	△210
投資その他の資産合計	13,220	17,657
固定資産合計	135,777	197,967
資産合計	246,558	338,191

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,180	41,770
短期借入金	2,857	38,914
1年内返済予定の長期借入金	448	2,323
未払法人税等	4,021	4,834
災害損失引当金	1,369	33
その他	27,298	31,355
流動負債合計	64,173	119,229
固定負債		
社債	—	2,000
長期借入金	5,879	26,200
退職給付引当金	12,069	14,694
役員退職慰労引当金	746	591
その他	12,625	17,322
固定負債合計	31,319	60,807
負債合計	95,492	180,036
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,803	16,803
資本剰余金	13,428	13,428
利益剰余金	120,509	126,619
自己株式	△177	△177
株主資本合計	150,563	156,673
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△57	△54
繰延ヘッジ損益	△57	△76
為替換算調整勘定	△2,562	△4,611
その他の包括利益累計額合計	△2,676	△4,741
少数株主持分	3,179	6,223
純資産合計	151,066	158,155
負債純資産合計	246,558	338,191



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	273,130	414,232
売上原価	242,748	368,647
売上総利益	30,382	45,585
販売費及び一般管理費	17,818	27,411
営業利益	12,564	18,174
営業外収益		
受取利息	65	88
受取配当金	58	61
持分法による投資利益	132	147
その他	255	238
営業外収益合計	510	534
営業外費用		
支払利息	287	636
為替差損	157	211
その他	97	134
営業外費用合計	541	981
経常利益	12,533	17,727
特別利益		
固定資産売却益	44	66
保険金確定差益	—	270
災害損失引当金戻入額	—	172
雇用調整助成金	—	37
投資有価証券売却益	40	19
特別利益合計	84	564
特別損失		
固定資産売却損	15	5
固定資産除却損	102	197
事業拠点再構築費用	357	133
減損損失	—	35
投資有価証券評価損	—	31
持分変動損失	—	21
災害による損失	—	21
特別退職金	49	3
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	121	—
特別損失合計	644	446
税金等調整前四半期純利益	11,973	17,845
法人税等	5,723	8,900
少数株主損益調整前四半期純利益	6,250	8,945
少数株主利益	89	381
四半期純利益	6,161	8,564

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,250	8,945
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△62	3
繰延ヘッジ損益	△126	△19
為替換算調整勘定	△1,712	△2,008
持分法適用会社に対する持分相当額	△32	△41
その他の包括利益合計	△1,932	△2,065
四半期包括利益	4,318	6,880
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,599	6,605
少数株主に係る四半期包括利益	△281	275

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損 益計算書計上 額(注3)
	国内物流	国際物流	計				
売上高							
外部顧客への売上高	190,181	69,482	259,663	13,467	273,130	—	273,130
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	5,719	5,719	△5,719	—
計	190,181	69,482	259,663	19,186	278,849	△5,719	273,130
セグメント利益	17,026	1,327	18,353	1,733	20,086	△7,522	12,564

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、情報システム開発、自動車販売・整備、旅行代理店業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△7,522百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「国際物流」セグメントにおいて、当社は平成22年4月30日にFlyjac Logistics Pvt. Ltd.を当社の連結子会社としております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては4,040百万円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損 益計算書計上 額(注3)
	国内物流	国際物流	計				
売上高							
外部顧客への売上高	289,606	111,069	400,675	13,557	414,232	—	414,232
セグメント間の内部売上高 又は振替高	105	3	108	5,991	6,099	△6,099	—
計	289,711	111,072	400,783	19,548	420,331	△6,099	414,232
セグメント利益	22,199	2,595	24,794	1,630	26,424	△8,250	18,174

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、情報システム開発、自動車販売・整備、旅行代理店業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△8,250百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

従来より報告セグメントの資産については、執行役員において事業セグメントの資産情報が利用されていないため記載しておりませんが、当社は平成23年4月5日にEternity Grand Logistics Public Company Limitedを、平成23年4月26日に株式会社バンテックを当社の連結子会社としてしていることから、前連結会計年度の末日に比して、当第3四半期連結会計期間の資産の金額が著しく変動しております。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する情報

当社は平成23年4月26日に株式会社バンテックを当社の連結子会社としており、当該事象によるのれんが増加しております。当該のれんについては、複数の報告セグメントに関わるものであり、報告セグメントに配分しておりませんが、関連する費用については合理的な基準に基づき各報告セグメントに配分しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「国際物流」セグメントにおいて、当社は平成23年4月5日にEternity Grand Logistics Public Company Limitedを当社の連結子会社としております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,078百万円であります。

また、当社は平成23年4月26日に株式会社バンテックを当社の連結子会社としております。なお、当該事象によるのれんの増加額は29,301百万円ありますが、複数の報告セグメントに関わるのれんであるため、報告セグメントには配分しておりません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。